# ５　広島県三次市作木町岡三渕における土地資源棚卸し調査

## （１）地域の概要

### １）作木町の環境

広島県三次市作木町は平成 16 年に作木村として 115 年続いた歴史にピリオドを打ち、三次市との合併により、作木町として新たなスタートを切った。広島県の北部に位置し、中国地方最大の大河、江の川に沿って南北に細長く延び、島根県との県境に位置する。南北 16.5 ㎞、東西 12.4 ㎞、総面積 91.92ｋ㎡の地形である。東－北側嶺線山地から南－西側に流れる江の川に向かって急傾斜し、この斜面に高位平坦面ができ、それを侵食して８本の支川が江の川に流れ込み、これら支川が深い谷を穿っている。

**作木町の位置**

ピンク（作木町）　　赤（調査地域）

図 3－5－2 の地目別面積（平成 14 年）を見ると、町内総面積のうち約 94%を山林（保安林を含む）が占め、耕地はわずか 5%にすぎない。

標高差は町内の北東にある女亀山は最高で 830.3m、最低は柳原の江の川川床で 90m であるから 740m の差がある。このような地形であるため、気象条件は地域によって差があり町内でも一様ではない。概して、

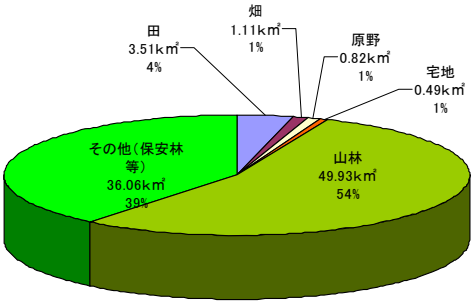


**図 3－5－1　地目別面積（平成 14 年）**

**資料：固定資産概要調書**

**常清滝**

積雪寒冷地域にあって、夏と冬の寒暖差は大きい。江の川の江筋・南斜面・中部山地の平坦面は日照状況が良く、高い山の北側・西側・東側は日当たりに恵まれない。谷が深く狭いので谷間の日照時間は極めて短い地域もある。地質は花崗岩が多く、花崗岩類による古生層があり、熱変成岩がある。この地層は秋芳（山口）や帝釈（広島）の古生層と同時期といってよい。また、県名勝のひとつ、常清滝は日本の滝百選にも選ばれている名瀑で、全長

126 メートルの壮大なスケールは日光の華厳の滝や和歌山の那智滝にも匹敵する。この常清滝形成期旧河床礫層は約 10 万年前の川底の岩石が白い岩盤に守られて残っているもので、中国山地形成過程を調査する上でも重要な資料となっている。

産業は、近世には「たたら製鉄」のため樹木の伐採や、産地の切り崩しに始まる農用地の開発などの自然破壊が急速に進み、場所によっては原形を残さないまでに変容した地域もある。近・現代に入り、この地域の主力産業は養蚕になり、畜産も副収入として重要な役割を担った。戦後、不況を受けた農家救済の手段として、梨栽培の導入も進んだ。養蚕は化学繊維におされ衰退をしたが、昭和 40 年代には出荷野菜や花卉栽培が増加した。このような点からも、今も産業の主は農業である。（『作木村誌』、『作木村百十五年のあゆみ』による）

作木町の人口推移については、図 3－5－3 に示すとおりである。昭和 30 年には 1,208 世帯、6,700 名がいたが、平成 12 年には 769 世帯、2,014 名と世帯数、人口ともに減少している。

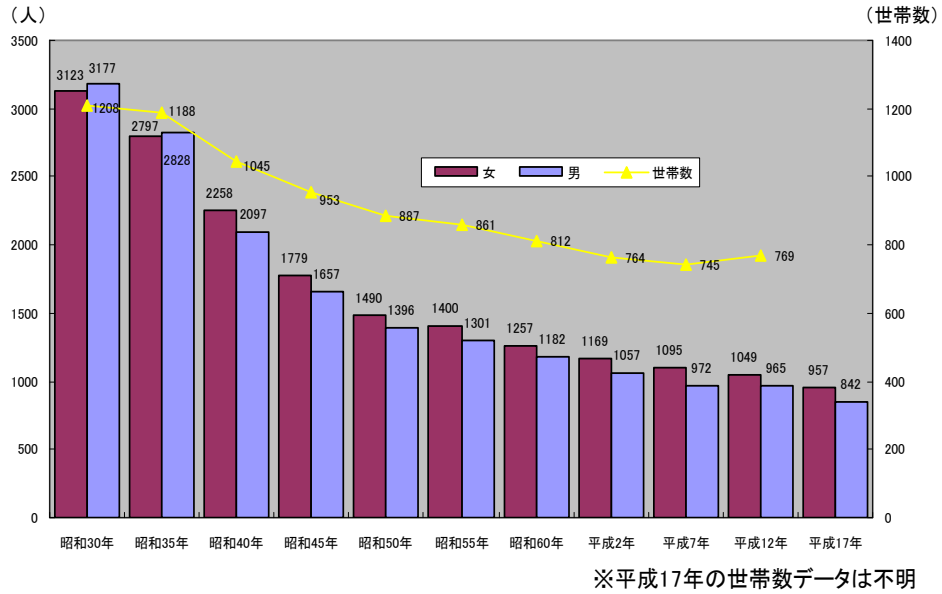


**図 3－5－2　人口世帯数推移**

**資料：国勢調査**

平成 12 年の年齢 5 歳階級別人口（図 3－5－4）を見ると 65 歳以上の人口が圧倒的に多い。また、5 年後の平成 17 年のデータ（図 3－5－5）を見ると 80 歳以上の比率が非常に高くなっている。高齢化率をみると平成 12 年が 43.7%、平成 17 年には 46.3%と上昇している。特に 20 歳から 59 歳までの生産年齢人口は約 2%減少しているが、80 歳以上の人口は約 7 %増加している。

このような地形、年齢構成のうえからも、この地域での農地の維持管理は大変困難な状況になりつつあることがわかる。

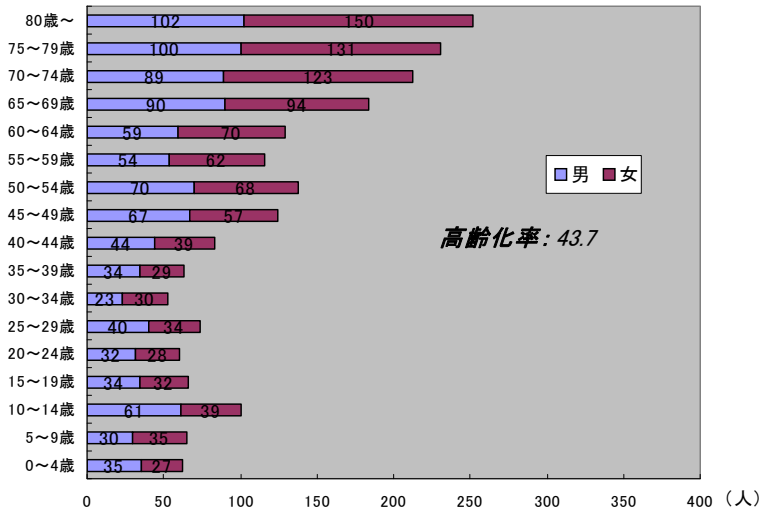


**図 3－5－3　作木町の年齢 5 歳階級別人口（平成 12 年）**

資料：国勢調査

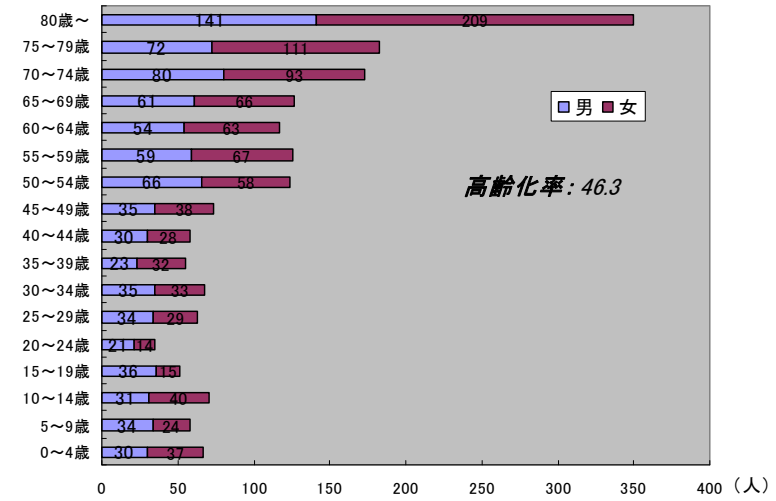


**図 3－5－4　作木町の年齢 5 歳階級別人口（平成 17 年）**

資料：国勢調査

## ２）作木町岡三渕の現状

『藝藩通誌』によると、岡三渕の名の由来は、慶長年間に森山村の岡と、横谷村の三渕（淵）の地を合わせて岡三渕となったとされる。岡三渕の地は四方を山に囲まれ、地域の中を一水の川が流れている。四方の山の一つには前記した町内最高峰の女亀山がある。

岡三渕地区にある史跡、文化財を図 3－5－6 で表示した。

この地域には多くの史跡等が存在しているが、その多くは管理が十分になされていない状態にあり、また、かつては作木町内でも最もたたら製鉄が盛んな地域であったが、現在確認可能ないくつかの遺構も風化がすすんでいる。

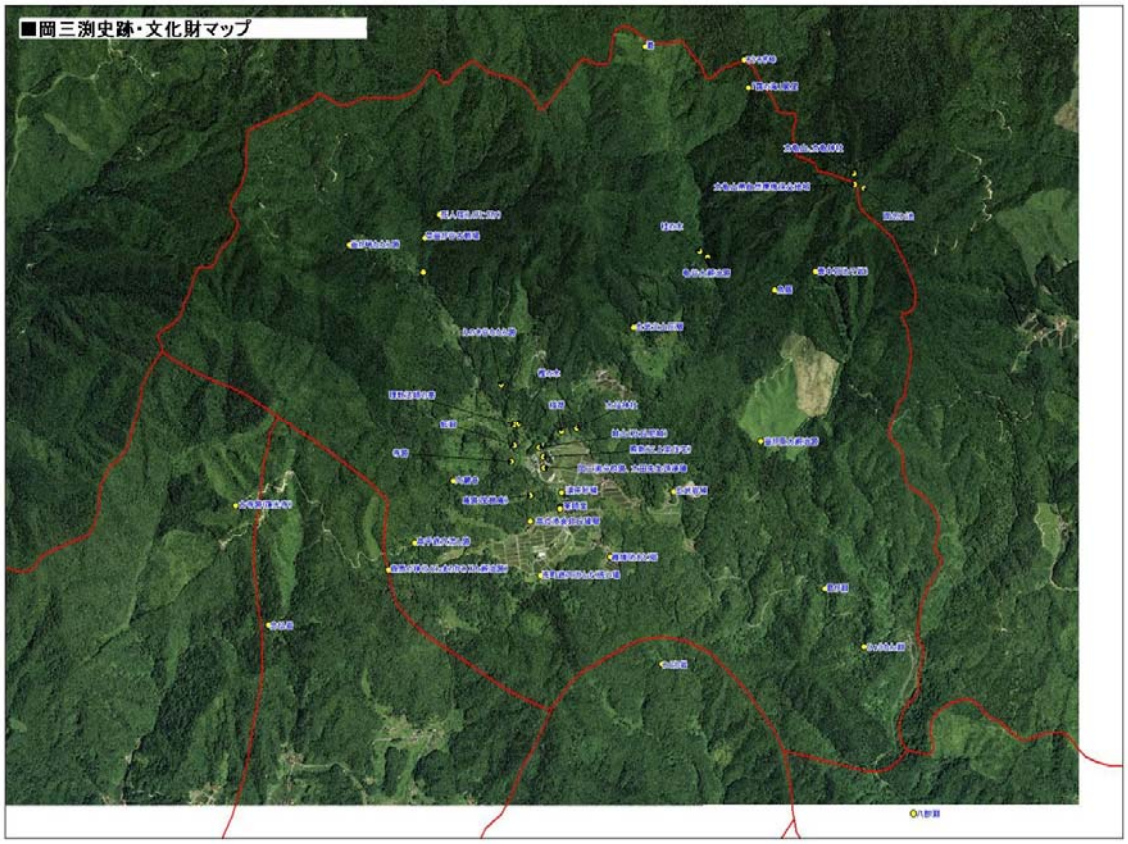


**図 3－5－5　岡三渕史跡・文化財マップ**

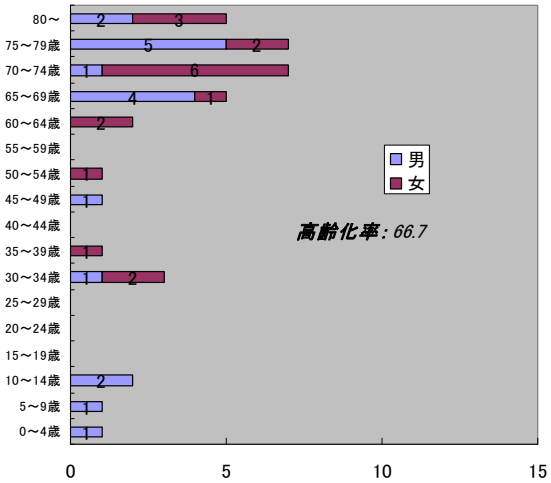


図 3－5－6　岡三渕地区の年齢 5 歳階級別人口
（平成 12 年：国勢調査）

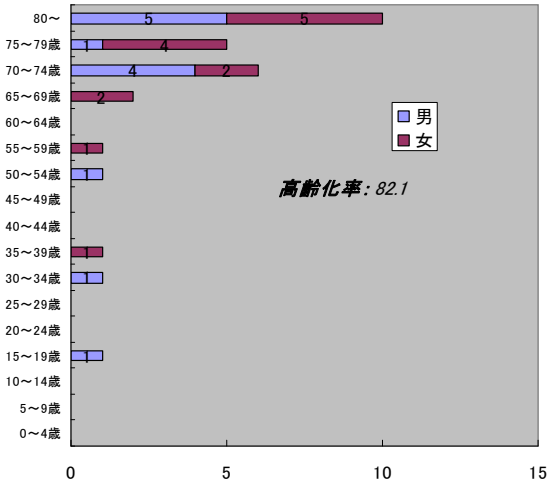


図 3－5－7　岡三渕地区の年齢 5 歳階級別人口
（平成 17 年：国勢調査）

この地域の 5 歳刻みの人口をみると、平成 12 年（図 3－5－7）は 36 名の住民が生活をしていたが、平成 17 年（図 3－5－8）には 28 名に減少し、高齢化率も 66.7％であったものが 82.1％に上昇し、5 年間で急激な変化をしている。

**表 3－5－1　岡三渕における人口・世帯数の推移**

| 項　　目 | 平 成 17 年 | 平成 19 年 7 月 | 10 年後（予測） |
|---|---|---|---|
| 世　帯　数 | 1 7　世　帯 | 1 3　世　帯 | 0　世　帯 |
| 人　　口 | 2　8　　名 | 2 0 名（居住） | 0　名 |

平成 17 年国勢調査と平成 19 年 7 月に当センターが行った調査データで推移を比較してみると、わずか 1 年半で世帯、人口ともに 2／3 に減少している。平成 12 年と平成 17 年の国勢調査結果から、コーホート変化率法でこの地域の将来人口予測を行うと 10 年後には無住化することが予想される。

このように、前項の作木町内全域の数字もさることながら、現状の岡三渕地域の人口、年齢を考慮すると 10 年後の当地域の存続すら危ぶまれる。

昭和 35 年には 58 世帯が生活をしていたが、現在はそのうち約 30 の家屋は廃家となっている。農地にしても、居住者の高年齢化による耕作困難のため耕作放棄地が増加している。また、四方を山に囲まれているため森林も多く、かつては林業も盛んであったが、高度成長、高齢化、都市部への移住など様々な要因から、私有林の管理放棄、所有の不在化等が進行している。

## （２）調査体制および手法

### １）実施体制

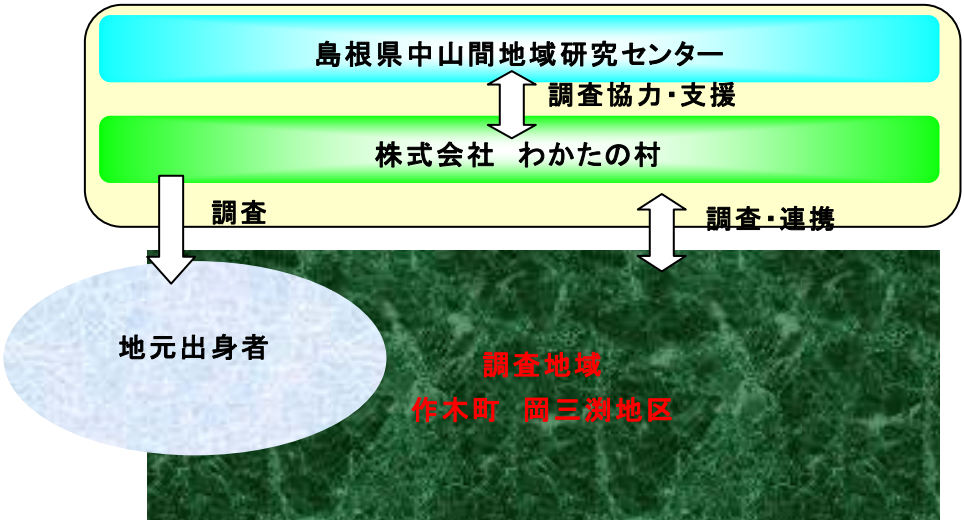


**図 3－5－8　作木町　岡三渕地区における調査実施体制**

この地域に密着した活動を行っている「株式会社わかたの村」（以下、「わかたの村」）を中心とし、「島根県中山間地域研究センター」と連携しながら民間主体の機動性と実効性に重点をおいた調査体制を構築した。

また、後述する社会実験も含め、図 3－5－8 のように「県立広島大学」、地域グループ「めんがめ倶楽部」の諸団体との連携を図りながら、岡三渕在住者だけでなく、出身者も含めた幅広い調査を行った。

「広島県立大学」の学生は頻繁に当該地域を訪れ活動を通して人的ネットワークも確立していることもあり、わかたの村との双方向での協力・連携をとりながら有用な活動を行った。

「めんがめ倶楽部」は、作木町下地区を拠点として地域の自然環境等を見直し、保護、活用することによって地域振興に寄与することを目的として、平成１７年８月に活動を始めた団体である。「ＲＣＣエコロジーファンド　グリーン賞」などの報奨も受けている。

### ２）調査手法

空き家と土地の実態を「わかたの村」が現地踏査により把握し、「島根県中山間地域研究センター」が GIS データ化を行った。また、所有者へのアンケート調査を実施し、意向把握を行った。

## （３）土地資源の現状

### １）家屋の状況

昭和 35 年の国勢調査では、この地域には 58 世帯あったが、現在では 13 世帯に大幅に減少している。不在化した 45 世帯の内、現在でも建物が確認できるのが 17 戸あり、28 戸については、その跡地が残されているだけである。建物が確認できる 17 戸についても、その多くが使用するには大規模な修繕が必要か、もしくは使用不能の状況となっている。

この状況を地図にしたものが図 3－5－9 である。家屋の状況別に色分け表示してあるが、防犯上の点から詳細な説明は行わない。

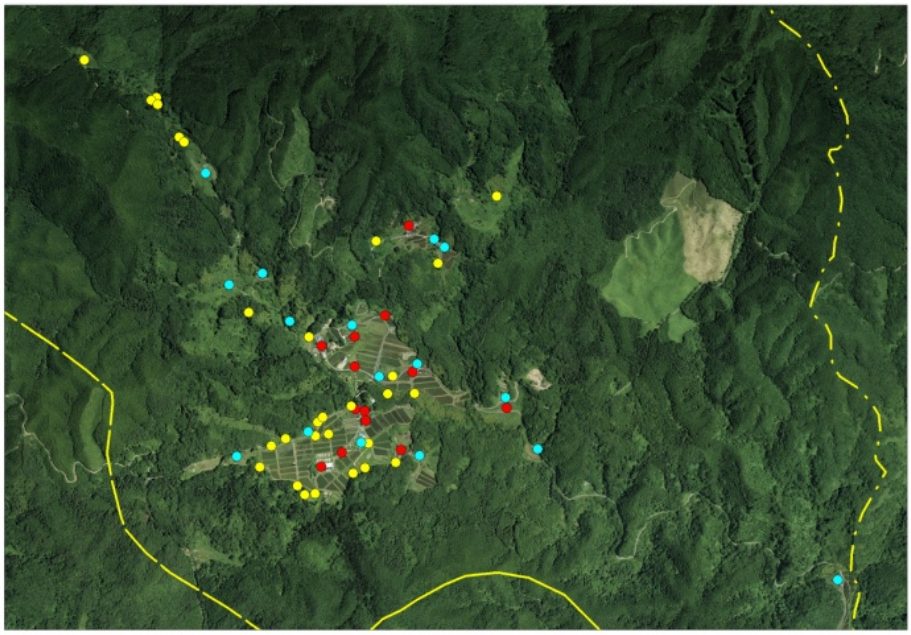

**図 3－5－9　家屋の状況マップ**

## ２）農地の状況

岡三渕には、現在 167 筆、14.6ha の農地が存在するが、耕作されている農地の内、田（111 筆、9.8ha）がほとんどであり、畑はわずか 11 筆、0.98ha にすぎない。一方で耕作放棄地も数多く存在し、45 筆、3.8ha もある。

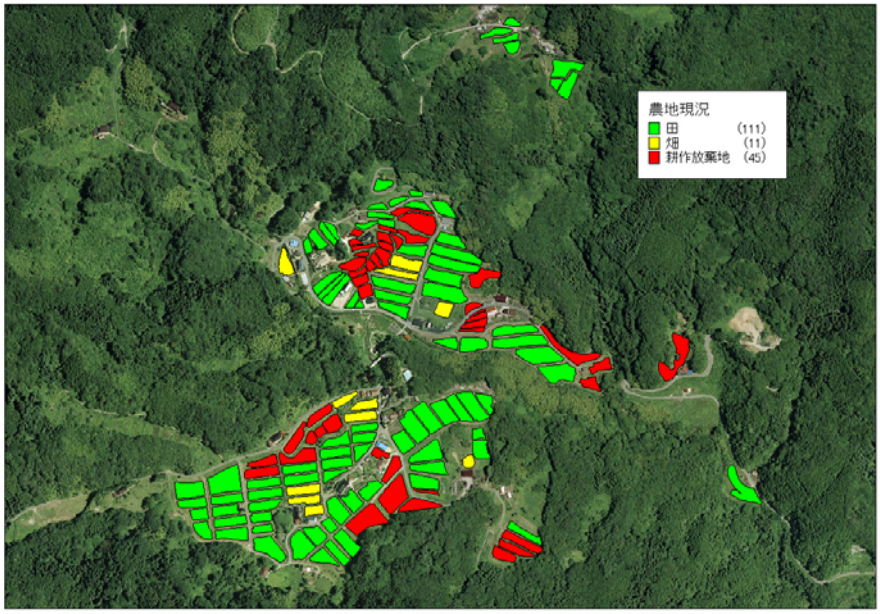


**図 3－5－10　農地現況マップ**

耕作放棄地について放棄された時期を聞いたところ、2001 年～2006 年までの間に放棄された農地が最も多く、面積の 6 割はこの時期に放棄されている。このような農地は復旧がしやすいと思われる。

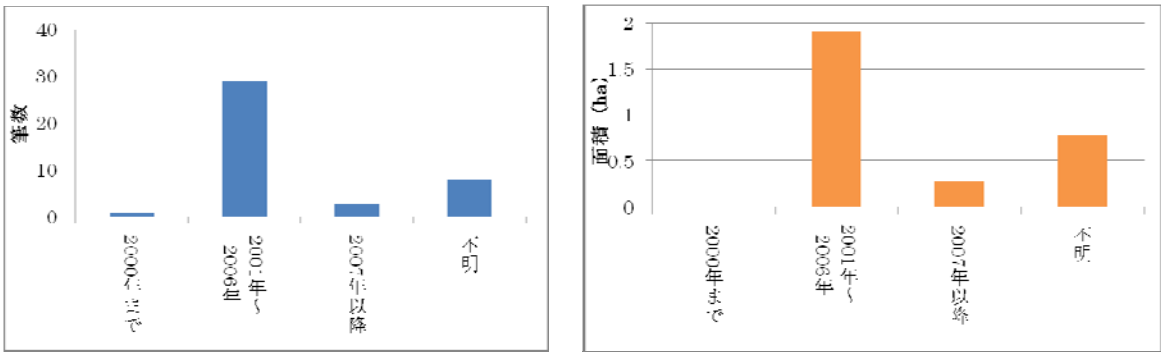


**図 3-5-11　放棄年代別農地筆数（左）、面積（右）**

なお、この情報を地図で表示したのが図 3－5－12 である。所有者の方が亡くなった後、耕作する人がいないため、まとまった農地が同一時期に放棄されているのがわかる。

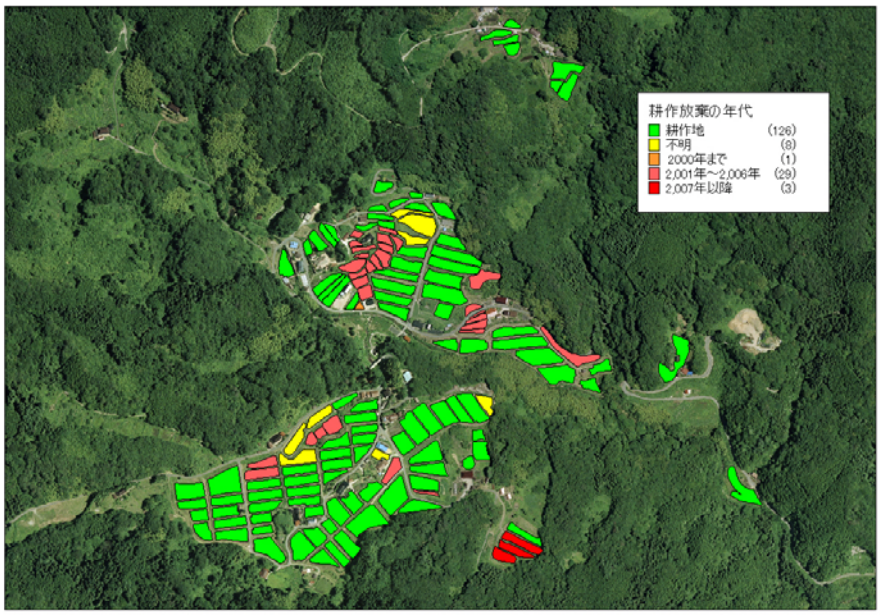


**図 3－5－12　放棄年代別農地マップ**

耕作されている農地についても、所有者年齢が 60 歳以下の農地は 18 筆、2.8ha しかなく、所有者が 80 歳以上の農地が 97 筆、7.4ha もある。80 歳以上の所有者のうち後継者がいるのは 2 名（31 筆、2.8ha）だけであり、残りの農地は後継者がいないため耕作放棄される可能性が高い。

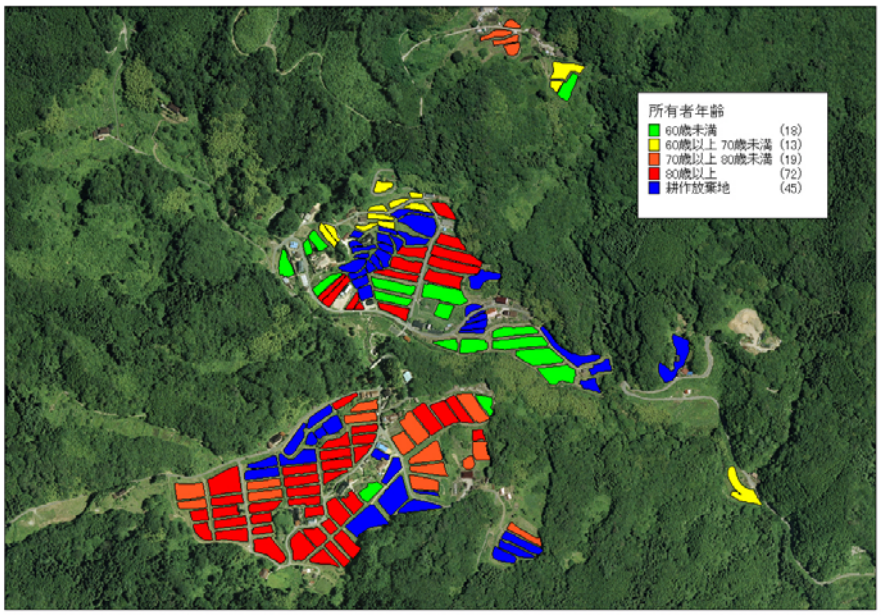


**図 3－5－13　農地所有者年齢別マップ**

所有者の居住地は、地域内居住者が 11 名（96 筆、8.6ha）、近隣の三次市内居住者が 1 名（23 筆、1.3ha）、その他広島市 9 名（36 筆、3.6ha）、福山市 2 名（12 筆、1.1ha）となっている。福山市居住者のうち一名の方は、二地域居住されている。

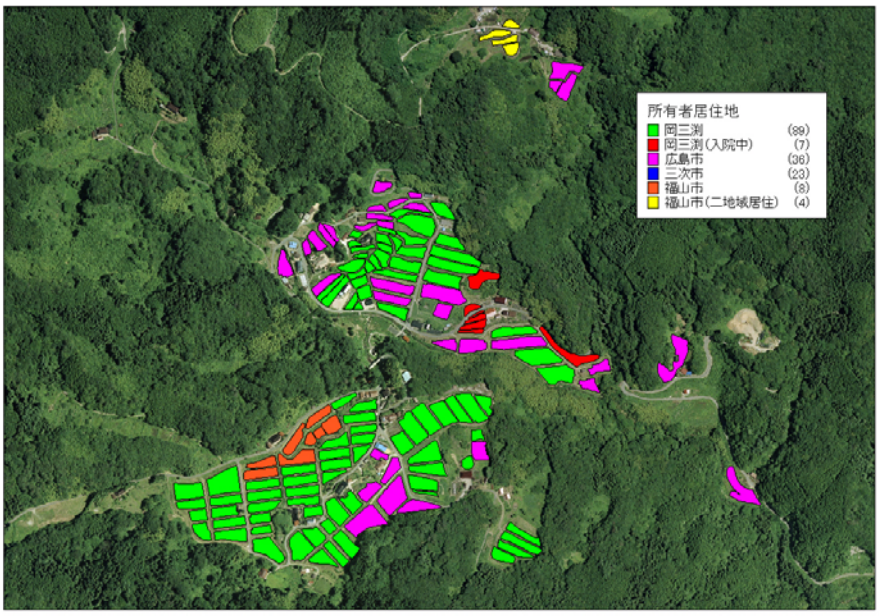


**図 3－5－14　農地所有者居住地別マップ**